

平成 28 年度学校経営計画

平成 27 年度～平成 29 年度

校番	121	学校名	大崎海星高等学校	校長氏名	大林秀則	☎・定・通	☎・分
----	-----	-----	----------	------	------	-------	-----

1 ミッション(地域社会における自校の使命)

生徒を鍛え、社会に出て力強く生きていくことができる能力と態度を育み、地域から信頼され、地域の期待に応える学校づくりに努める。

2 ビジョン(使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像)

1 確かな学力を養う学校

きめ細かい指導、個に応じた指導を行い、生徒一人一人の能力を伸ばさせ、確かな学力を身に付けた生徒を育成する。

2 豊かな心を育む学校

生徒指導を充実させ、道徳教育、特に人間としての在り方生き方に関する教育を充実させることにより、豊かな心を育み、現代社会に通用する生活態度等を身に付けた生徒を育成する。

3 地域から信頼され、地域の期待に応える学校

地域に情報を積極的に発信することや地域との連携を深めることにより、地域に開かれた学校づくりを推進するとともに、生徒個々の進路希望を実現させることにより、地域から信頼され、地域の期待に応える学校づくりを推進する。

3 環境分析

(1) SWOT分析概要

外部環境

強み(O)	弱み(T)
<ul style="list-style-type: none"> 生徒の挨拶がほめられるなど、地域からも信頼されてきている。 島内中学校と距離的に近い。 地域の行事への参加や施設への訪問がしやすい。 地域や保護者に本校OBが多く、学校行事に協力的であり、保護者同士の人間関係もある。 島内唯一の公立高等学校として地元の期待が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 少子化によって、中学校の卒業生が減少している。 生徒募集の際に、国立広島商船高専と競合する。 島外の生徒は、時間や天候に通学が制約される場合がある。 少人数であっても、服装違反が地域によく目立つ。

内部環境

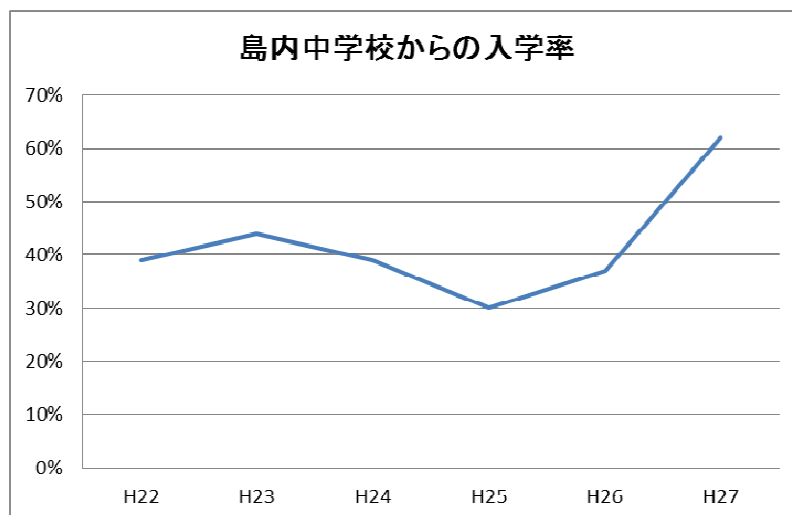
強み(S)	弱み(W)
<ul style="list-style-type: none"> 小規模校であり、個別指導やきめ細かい指導をしやすい。 生徒の多くは純朴で素直であり、指導が響く。 生徒は集中して行事等に打ち込み、真剣に物事に取り組む。 生徒は地域の行事に進んで参加している。 教育課程は、生徒の幅広い進路希望に対応できる教育課程となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習習慣が身に付いていない生徒がいる。 勉強に対する自信を持っていない生徒がいる。 部員不足のため部活動に支障が出る場合がある。 島嶼部の学校のため、他校との交流がほとんど無い。 競争にさらされていないため、穏やかであるが、他のものを知るチャンスが少なく、よい意味での競争心が十分育まれていない生徒が多い。

(2) SWOT 分析から導き出された対応策

- 生徒の学習意欲を高め主体的に家庭学習を行う習慣を身に付けさせ、基礎的な知識・技能を習得させる。
- 基礎的な知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育成する。
- 生徒の自己指導能力を高める。
- 人間としての在り方生き方を考えさせるための教育を、全教育活動を通じて師弟同行で推進し、豊かな心を育む。
- 早期からの見通しをもったキャリア教育及び進路指導により、生徒の進路第一希望を実現する。
- 外部指導者の導入や活動方法の工夫することにより部活動を活性化させる。
- 中学校との連携を密にし、様々な機会を捉えて中学生と高校生が交流できる場を設定し、本校生徒及び本校の良さを知らせる。
- 学校の情報を積極的に公開し、保護者及び地域との連携を密にする。

(3)基礎データ

項 目		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
共通学力テスト及び広島県高等学校学力調査の学校平均通過率	1年	国語A	64	69	66	61	54	51
		数学A	63	63	64	47	53	39
		英語A	43	60	47	39	48	45
	2年	国語B	64	62	72	60	52	52
		数学B	58	48	70	54	34	42
	英語B	46	47	64	54	35	49	
家庭学習時間	家庭学習調査2時間以上の生徒の割合	35%	39%	18%	24%	1%	0%	
進路選択能力の育成	2年生の進学希望者がオープンキャンパス等で上級学校等を見学した割合	100%	50%	83%	42%	25%	25%	
合格状況	第一希望合格率	75%	85%	86%	100%	96%	100%	
	国公立大学合格者数	2	2	1	2	0	0	
授業規律の確立	生徒アンケート「私は、授業においてベルスタートにきちんと対応している。」肯定的評価の割合	92%	92%	85%	93%	94%	97%	
	教職員アンケート「生徒は、ベルスタートできるよう授業に臨んでいる。」肯定的評価の割合	100%	100%	87%	100%	83%	73%	
基本的生活習慣の確立	遅刻が1ヶ月3回以下の生徒の割合	89%	97%	91%	87%	75%	70%	
	生徒アンケート「私は、登下校のときや来客に対してあいさつをよくしている。」肯定的評価の割合	90%	92%	88%	89%	87%	93%	
	年間30日以上欠席者数	3人	1人	2人	0人	1人	0人	
	中途退学者数	2人	1人	3人	1人	0人	0人	
言語活動の推進	生徒アンケートによる1月の一人当たりの読書数	2.2冊	2.3冊	2.0冊	2.0冊	1.8冊	1.6冊	
	授業で取り組んでいる教職員の割合	86%	100%	100%	78%	100%	63%	
保護者との連携	保護者アンケート「いかせて良かった」肯定的評価の割合	93%	95%	91%	97%	92%	88%	
生徒の満足度	生徒のアンケート（2,3年生の満足度）肯定的評価の割合	91%	85%	85%	86%	76%	90%	
地域連携	学校情報誌の年間発行回数	12号	12号	12号	12号	11号	11号	
	島内中学校からの入学率	39%	44%	39%	30%	37%	62%	



4 目標の設定

学校経営目標						
達成目標	評価指標	実績値		目標値		担当部等
		平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
1 学校の魅力化を推進し、地域の期待に応える教育活動を展開するとともに、学校の情報を積極的に発信する。						
①中高連携を推進している。	大崎上島中学校卒業生の入学率(対卒業生数)	37%	62%	55%	60%	全校
②地域学習「大崎上島学」を実施し、地域に誇りを持ち、地域に貢献する生徒を育成している。	生徒アンケート「「大崎上島学」を学んで、地域に誇りを持つことができた。」の肯定的評価の割合	新規	100%	80%	80%	教務部 リサーチ 担当者
③教育活動等について積極的に情報発信している。	HP 更新回数	新規	66 回	60 回	60 回	進路指 導部
	HP 満足度アンケート	新規	90%	80%	80%	進路指 導部
2 特別支援教育の視点に立った組織的な授業づくりを推進し、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、知識を活用し協働して新たな価値を生み出そうとする意欲を持つ生徒を育成する。						
①生徒指導の三機能を生かした授業づくりを推進することにより、生徒の自己肯定感が高まるとともに、生徒は基礎的な知識及び技能を習得している。	授業評価アンケート「授業では、「本時の目標」が板書されている。」の肯定的評価の割合	91%	94%	95%	100%	教務部 各教科
	授業評価アンケート「授業では、「振り返り」の時間がある。」の肯定的評価の割合	79%	88%	85%	90%	教務部 各教科
	授業評価アンケート「授業を受けて、やればできるという意欲が高まった。」の肯定的評価の割合	新規	77%	75%	75%	教務部 各教科
	広島県高等学校学力調査において学校平均通過率が1年次から2年次にかけて維持・向上した教科数	新規	新規	1教科	2教科	教務部 各教科
②能動的な学びを推進することにより、生徒の主体的に学ぶ態度が育成されている。	学習時間調査1日平均1時間以上の生徒の割合(%)	新規	新規	30%	30%	教務部 各教科
	授業評価アンケート「授業では、話し合いなどの活動を通して、考えたり、問題を解決したりする場面がある。」の肯定的評価の割合	67%	85%	85%	90%	教務部 各教科
	授業評価アンケート「授業を受けて、自分からすすんで勉強しようという意欲が高まった。」の肯定的評価の割合	新規	71%	70%	75%	教務部 各教科
	ICEモデルを活用した学習指導案の作成	新規	2回	3回	3回	教務部 各教科
3 きめ細かな指導により、生徒の進路第一希望を実現させる。						
①組織的な進路指導体制により、生徒の進路第一希望が実現している。	進路第一希望合格率	96%	100%	90%以上	90%以上	進路指 導部
	国公立大学希望者の合格率	0%	0%	60%以上	60%以上	進路指 導部
	公営塾との連携回数	新規	38回	40回	40回	進路指 導部 担当者
4 生徒指導を充実させ自己指導能力を育成するとともに、道徳教育、特に人間としての在り方生き方に関する教育を充実させ、豊かな心を育む。						
①生徒に基本的な生活習慣を身に付けさせ、自己指導能力を高めている。	生徒アンケート「私は、授業におけるベルスタートにきちんと対応している。」の肯定的評価の割合	94%	97%	96%	96%	生徒指 導部
	1日当たりの遅刻者数を2.0人以下にする。	2.5人	2.5人	1.7人	1.5人	生徒指 導部

学校経営目標						
達成目標	評価指標	実績値		目標値		担当部等
		平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
②生徒に人間としての在り方生き方を考えさせ、豊かな心を育てている。	保護者アンケート「高校生はよく挨拶をする。」の肯定的評価の割合	63%	67%	67%	70%	生徒指導部
	保護者アンケート「高校生は制服をきちんと着用している。」の肯定的評価の割合	84%	79%	88%	90%	生徒指導部

5 行動計画

学校経営目標			
達成目標	本年度行動計画	中期行動計画	担当部等
1 学校の魅力化を推進し、地域の期待に応える教育活動を展開するとともに、学校の情報を積極的に発信する。			
①中高連携を推進している。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事（体育祭・文化祭等）における生徒の交流を活性化させる。 ・部活動における交流（合同練習等）を積極的に取り入れる。 ・相互の教育相談（高校教員による中3生への進路相談、中学校教員による高1生へのカウンセリング）を実施する。 ・相互の授業参観を実施する。 ・大崎上島中学校の出勤授業を毎週行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中高連携が定着し、評価・改善が積極的に行われている。 ・島外中学校との連携が推進されている。 	全校
②地域学習「大崎上島学」を実施し、地域に誇りを持ち、地域に貢献する生徒を育成している。	<ul style="list-style-type: none"> ・「大崎上島町幼小中連携プロジェクト」との連携のもと、既習事項と関連付けながら系統的な学習となるよう配慮し実施する。 ・「大崎海星高校魅力化推進チーム」ミーティングにおいて、実施後の評価と課題の整理を行うとともに、平成28年度から、年次進行で各学年1単位を付与し独立した科目として展開できるような計画を作成する。 ・「大崎海星高校魅力化推進チーム」ミーティングにおいて、実施後の評価と課題の整理を行うとともに、平成29年度から実施する「大崎上島学Ⅱ」と「大崎上島学Ⅲ」実施計画を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中高の系統性を考慮した「大崎上島学」のグラントデザインに基づいて実施されるとともに、評価・改善が積極的に行われている。 	教務部 リサーチ 担当者
③教育活動等について積極的に情報発信している。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報誌を年間11回以上発行し、地域及び島内中学生等に配布する。 ・HPで本校の活動状況を発信する。 ・学校案内（パンフレット）を広域に配布する。 ・町広報の活用など、島内への情報発信の方法を工夫する。 ・町内放送の活用により、学校行事（文化祭、体育祭）の案内を発信する。 ・マスコミへの情報提供も含め、広域への情報発信の方法を工夫する。 ・広島商船高等専門学校と連携し、本校の情報発信を行う。 ・県外の生徒募集に関して、関係機関と連携し、計画的な広報活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力発信に係るトータルプランが作成され、本校の魅力が広域に伝わっている。 	進路指導部

学校経営目標			
達成目標	本年度行動計画	中期行動計画	担当部等
2 特別支援教育の視点に立った組織的な授業づくりを推進し、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、知識を活用し協働して新たな価値を生み出そうとする意欲を持つ生徒を育成する。			
①生徒指導の三機能を生かした授業づくりを推進することにより、生徒の自己肯定感が高まるとともに、生徒は基礎的な知識及び技能を習得している。	<ul style="list-style-type: none"> すべての授業において、「目標の板書」「振り返り」「流れの明示」を実施する。 個別の指導計画に基づいた実践を行い、学期毎に評価・改善を図る。 個別の教育支援計画に基づき、保護者や保健、福祉、医療等の教育関係機関と連携して支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自己肯定感を高める授業実践が定着し、評価・改善が積極的に行われることにより、学校の授業文化となっている。 特別支援教育の視点に基づいた教育活動の展開によりインクルーシブ教育が実践されている。 	教務部 各教科
②能動的な学びを推進することにより、生徒の主体的に学ぶ態度が育成されている。	<ul style="list-style-type: none"> アクティブ・ラーニングについて研究し、授業へ積極的に導入する。 ICTを積極的に導入する。 ICEモデルの研究を通して、ICEモデルを活用した学習指導案を作成し、実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> すべての教科・科目において、課題発見・解決学習がバランスよく展開されている。 	教務部 各教科
3 きめ細かな指導により、生徒の進路第一希望を実現させる。			
①組織的な進路指導体制により、生徒の進路第一希望が実現している。	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導計画（大崎海星高校ロードマップ）に基づき、計画的・組織的な進路指導を行う。 国語・数学・英語を中心とした年間指導計画を作成し、生徒・保護者に周知し、学校と公営塾が連携して指導する。 進路検討会議を実施し、全教職員が全生徒の指導方針を共有する。 公営塾との連携を密にし、学校と公営塾が一体となった指導体制を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> 大崎海星高校ロードマップがブラッシュアップされている。 学校と公営塾が相互補完することにより、志を高く持った生徒の進路第一希望が実現している。 	進路指導部 公営塾 担当者
4 生徒指導を充実させ自己指導能力を育成するとともに、道徳教育、特に人間としての在り方生き方に関する教育を充実させ、豊かな心を育む。			
①生徒に基本的な生活習慣を身に付けさせ、自己指導能力を高めている。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導の三機能を生かした教育活動を展開し、生徒の自己指導能力を高める取組を実践する。 SHR、授業におけるベルスタートを徹底させる。 日々の遅刻結果を生徒に示すとともに、遅刻の多い生徒に対する指導を強化する。 遅刻の減少に向けて、「反省文を書かせる」、「保護者を召喚する」などの厳しい指導を行う。 生徒指導部による登校指導を、全教職員でかわれるように計画的に取り組む。 生徒会を中心とした挨拶運動など主体的な活動を促していく。 正しい制服の着用の仕方や違反について、年度当初に全校で確認をし、生徒も教職員も共通理解を図り学校全体で指導していく。全教職員で月間目標を重点的に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自己指導能力が高まり、基本的な生活習慣が確立されている。 挨拶の励行が徹底されるとともに、学習環境が整備され、生徒の授業への集中力が高まっている。 	生徒指導部
②生徒に人間としての在り方生き方を考えさせ、豊かな心を育てている。	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活や日常生活におけるマナー指導を徹底する。 地域や同窓会の社会人を講師とした講演会を複数回行う。 地域と協働した校外清掃を実施する。 ボランティア・バンクの活動を通して、奉仕の精神を涵養させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が勉強と部活動を両立し、生き生きと学校生活を送っている。 ボランティア活動に積極的に挑戦させることにより、生徒の道徳性が高まっている。 	生徒指導部